Via Latina 22

2026 年 11 月　359 号

総本部よりのお知らせ－マリア会

内　容

総長評議員会のフランス訪問、共同体と福音宣教を強化 1
マリアニスト学校の指導者、ヨーロッパの協力を強化 3
3 つの U.S.マリアニスト大学について承認された新しい後援モデル 5
列聖への 40 年の道のり 6
注意喚起：「いのちの約束」について共同体の考察を分かち合ってください 7
ミッシェル・エロウの帰天 8
国際名簿 2026－2027 が間もなく届きます！ 9
発　行　物 9
　ファウスティーノ 9

総長評議員会のフランス訪問、共同体と福音宣教を強化

2026 年 9 月 23 日から 10 月 18 日に行われた総長評議員会のフランス地区への訪問で歴史と希望が出会いました。

総長評議員会は、パリ、アントニー、ボルドー、サン・ディエ・デ・ボージュ、そしてサン・イポリットのマリアニスト共同体を訪問しました。評議員会メンバーは会員たちと一緒に祈り、食事、そして日常生活を分かち合い、そして総会の優先事項である若者との同伴に関し霊的話し合いを主導しました。

ボルドーとサン・イポリットは特別な歴史的重要性を帯びています。福者ギョーム・ジョゼフ・シャミナードはこれら 2 つの場所で生活し活動しましたが、そこでは今日もマリアニスト修道者たちが引き続き生活しています。



総長評議員会はパリで地区長評議員会と会合を開き、フランス地区の現在のニーズと将来について話し合います

パリのノートルダム大聖堂で、評議員会は教皇レオ 14 世との夕べの祈りのため合流し、新しい召命のために祈りを捧げました。10 月 2 日、マリア会創立第 209 回記念日に、評議員会は、シャミナードが活動を始め、マリアニスト家族を創設したボルドーのマドレーヌ聖堂でミサの祭儀を行いました。

学校への訪問はマリアニスト教育の多様性を示しました：アントニーの聖マリア学院、グラン・ルブランの聖マリア学院、サンデイエのガリレのマリア統一校、ベルフォールの聖マリア学院、レキスタの聖ルイ、聖ジョゼフ学校、ロン・ル・ソニエの聖マリア学院、そしてサンモール高等学院。このビデオ映像で総長、アンドレ・ジョゼフ・フェティス師は母校アントニーに戻り、彼の嘗ての学校記録を見ながら生徒時代を思い出しています。後に、彼はグラン・ルブラン校とベルフォールの聖マリア校で教えました。



上：アントニーの共同体
下：教会法上の訪問中に集まったサン・イポリットとサン・ディエ・デ・ボージュの共同体

評議員会メンバーはまたスウシ・アン・ブリとアジャンのマリアニスト修道女たちに会いました：彼らはプティ・バル学校施設、年配者のためのケアーセンター≪セードル≫、アデル・ド・トランケレオン施設を訪れ、そしてベタニ共同体メンバーとミサをあげました。

評議員会はレキスタ、サン・イポリットそしてトロアの墓地で、私たちより前に帰天したマリアニストを慰霊し、新しい召命のために祈りました。

フランス地区は 36 名の修道者を有しています：26 名の修道士と 10 名の司祭で、彼らの平均年齢は 73 才です。フランス地区にはコートジボアール従属地区とコンゴ特別地区が所属しており、2027 年初頭に評議員会はこれらの地区を訪問する計画です。コートジボアール従属地区は地区となる途上にあります。



総長評議員会はフランス各地の学生と会合を行っています
左上から時計回りに：写真家を目指す学生はサンデイエのガリレのマリア統一校で評議員会の肖像写真を撮影、小学生はアントニーの聖マリア学院で評議員会メンバーと話し、学生たちはサンモール高等学院で評議員会を歓迎、そして学生たちはグラン・ルブランの聖マリア学院で訪問者と会います

マリアニスト学校の指導者、ヨーロッパの協力を強化

第 11 回ヨーロッパマリアニスト教育協議会（CEME）のためローマ近くにあるサクロファノのカサ・フラテルナ・ ドムスに 33 学校から 160 名以上の参加者が集まりました。参加者たちはオーストリア、ブラジル、フランス、ドイツ、イタリアそしてスペインを代表して来ました。



上：10月22日に出席した男女マリアニスト修道者
下：33校から160人以上の参加者が、サクロファノのカサ・フラテルナ・ドムスで
第11回CEM会議に集まります

この会議のテーマは≪今日と将来のマリアニストの教育的使命の共同責任≫でした。紹介のビデオは写真と短いビデオクリップの方法を使用しヨーロッパマリアニスト学校ネットワークを紹介しました。この会期は 2 つのサイクルで進められました：一つは 10 月 19 日から 21 日にかけて施設責任者に宛てられ、そして他は 10 月 21 日から 23 日にかけ、そこには学校施設の指導者チームとマリア会総長が合流しました。これらの会期を介して参加者たちは自分たちの独自性を強め、そして福音宣教の責任を共有することを求められていました。



パブロ・ランボー神父とデニス・バウティスタ士が参加者に
現在の教育課題に対するマリアニストの対応について語ります

10 月 21 日、教育局長、デニス・バウティスタ士は教育的課題へのマリアニストの回答を示しました。小グループによる検討会の時に、参加者から他の議題が提起されました：例えば、ヨーロッパにおけるカトリック教育、指導体制の共有、福音宣教活動の支援のための統

括と体制構造など。参加者たちはグループで活動し、ローマへ旅行し、聖マリア学院を訪問しました。



教育局長、デニス・バウティスタ士は、学校リーダーに対し、マリアニストのアイデンティティと使命が現在の教育課題への対応をどのように導くかを考えるよう呼びかけます

学校の指導者たちは一緒に祈り、意見を交換し、異なる国での経験から学びました。ヨーロッパのマリアニスト学校の指導者間のこの会議は他の会期、とりわけ 2015 年サン・イポリット、2018 年ウイーン、そして 2022 年サン・セバスティアンの会期に続いて一環をなすものでした。CEME は、ヨーロッパを通してマリアニスト学校間の協力と若者たちへの奉仕活動を強めます。

3 つの U.S.マリアニスト大学について承認された新しい後援モデル

アメリカ管区はこれからの世代のためその 3 つの大学のカトリック的、マリアニスト的な福音宣教を保証する重要なステップを取りました。5 年以上にわたる検討と意見聴取の後、教皇庁は≪マリアニスト教育活動≫（MEM）を教会法における「公的法人」として承認しました。総長、アンドレ・ジョゼフ・フェティス師は公式にこの申請書を提出していました。

University of Dayton

ST. MARY'S UNIVERSITY OF SAN ANTONIO, TEXAS 1852

CHAMINADE UNIVERSITY OF HONOLULU VITA IN VERBO 1955

MEM は、ホノルルのシャミナード大学、サンアントニオのセント・メアリーズ大学、そしてデイトン大学のカトリック的、マリアニスト的後援者の役割を引き受けます。新しいモデルはマリアニスト修道者の減少に応え、マリアニストの宣教とカリスマのために同僚信徒たちとの責任の共有を強化します。

この推移は大学の日常活動、財務、学究プログラム、管理運営、或いは非営利組織の立場を変更しません。これらの領域への各大学の責任は、これまで通り続きます。

MEM 特別委員会、管区評議員会、そして大学の 3 名の学長は、意志疎通、教育資源、そして育成プログラムなどを含む次の段階を主導します。コレジウム（協議会）と呼ばれる新しい協賛委員会はマリアニスト修道者と信徒メンバーから構成されます。管区長のエド・ヴァイオレット士がその委員長となります。

列聖への 40 年の道のり

40 年前、1986 年 10 月 17 日、ファウステイーノ・ペレス・マングラノの列福調査はバレンシアで開始されました。こうして、聖性への普遍的な召命がこの若者の生涯において特別な形で示したことを教会の中で示すことを意図した歩みが始まりました。

ピラール高校の聖堂で執り行われたその式典には、ファウスティーノとマリアニスト家族にとって重要な人たちが一堂に会しました。開会式はマドリードのピラール高校の卒業生であったバレンシア大司教、ミゲル・ロッカ猊下によって司式されました。大司教のそばには、ファウスティーノの霊的指導者であり、当時マリア会総長であった、ホセ・マリア・サラベり師も出席していました。



バレンシアのコレヒオ・デル・ピラール聖堂でミゲル・ロッカ大司教によって執り行われた感謝の祭儀

またこの式典にはマリア会の列聖請願総代理、エンリケ・トーレス師、ファウスティーノが所属していた信徒グループ CEMI の創設者であった副請願代理、ホセ・アントニオ・ロメオ、当時サラゴサ管区の管区長であったマリア会員イグナシオ・オターニョ師も出席して

いました。

40 年経った今、あの開始の出来事は、彼の信仰の生き方が今日私たちに教えてくれるもの、すなわち、自然さ、喜び、使徒的誓約、奉仕、そしてイエスとマリアとの深い友情について私たちが考察するようにとの促しとして私たちにチャレンジ続けています。

ロザリオの祈り：祈りとなった友情

定着した伝統によって、10 月の月はロザリオの祈りに捧げられます。ロザリオの祈りを通して、「キリスト信者はマリアからキリストの姿の美しさを見つめること、そしてキリストの愛の深さを体験することを学びます」。

ファウスティーノは、ロザリオの祈りを唱えるのを学んだ子供の時からこのことを理解するようになり、この祈りは彼がイエスとマリアとの友情のうちに生きる助けとなりました。これはファウスティーノの私たちへの贈りものです：すなわち、ロザリオの祈りに自由にアプローチすることです。ロザリオは共同体で、あるいは一人で神と祈ることができる祈りです。私たちは単的に敢えてそれを知る必要があります。

注意喚起：「いのちの約束」について共同体の考察を分かち合ってください

先月の 10 月、全共同体は第 5 号書簡を受け取りましたが、この書簡は第 36 回総会文書、「いのちの約束」の序言について考察するよう招いており、またこの考察から出てくる洞察や考えを分かち合うことを奨励しています。

既に多くの思慮深い回答が寄せられています。これらの回答は方向性の分かち合いを形成し、総会の要請についての共通の理解を深めるのに役立っています。まだ回答していない共同体は自分たちの考察を次のアドレスに提出するよう求められています：

https://form.jotform.com/250825800333046

以前の書簡（英語）へのリンク：

書簡第 4 号（2026 年 3 月）　書簡第 3 号（2025 年 9 月）　書簡第 2 号（2025 年 3 月）
書簡第 1 号（2024 年 12 月）

全世界の行政単位と共同体が総会の考えをどの様に実践に移しているか、その方法の一端を以下に示します：

韓国地区での出会いと共に歩む教会の夏

6 月から 8 月の夏の間、韓国地区のマリア会員は特別な「共に歩む教会活動」に向けて若者たちの集いを持ちました。この集いは、若者たちが一緒に集い、経験を分かち合い、お互いに耳を傾け、そして信仰と友情の中で成長する良い機会でした。

この集まりには、活発な議論、示唆に富んだ発表、そして友人関係を促進し、若者たち間の絆を強める楽しい活動がありました。この集まりのハイライトは、祈りと感謝の中に皆を一つにするミサの祭儀でした。



これは、シノダリティの精神で教会として共に歩み、共に成長する素晴らしい表現としての、出会い、お互いの傾聴、そして交わりの喜ばしい夏でした。

ミッシェル・エロウの帰天

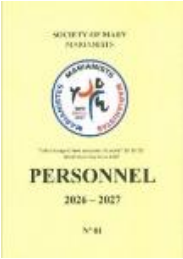


主は、前のアリアンス・マリアル会長を御許に召されました：ミッシェル・エロウは 10 月 9 日、93 才で帰天しました。

ミッシェル・エロウは 1983 年から 1998 年までアリアンス・マリアルの責任者でした。彼女はアリアンス・マリアル（AM）を“信徒の会”として知らせるため活動しましたが、このことは 1995 年に実現しました（2019 年に在俗会として AM が承認される前の最初の重要なステップ）。

ミッシェルはフランス西部、ラ・ロッシェルで生活しましたが、そこの公立高校で歴史-地理の先生をしていました。長年に渡り彼女がアリアンス・マリアルにもたらしてくれた全てに関し神に感謝しましょう。そして光と平和の神の国へ彼女を迎え入れてくださるよう主に祈りましょう。

国際名簿 2026－2027 が間もなく届きます！



国際名簿の今年度版は既に印刷され近日中に全行政単位の本部に送付されます。印刷コピーの到着時期は各地の郵便事情によりますが、私たちはこれら名簿が間もなく届くよう願っています。これら名簿が行政単位の本部に届いたら、総書記との間の通信で指定されている全ての共同体、活動場所、人物、そして組織へ配布をお願いします。配布を容易にするために既に準備されたラベルも含まれています。

発　行　物

ファウスティーノ

尊者ファウスティーノお列聖調査に関して出版されたニュースレターは 3 か国語で次のリンクを経て入手出来ます。

ファウスティーノと共に　2026 年 11 月　　列聖への道のり 40 年

これらを読み、分かち合うよう要請します。

最近の総本部通信

- **訃報：15 号**
- **10 月 12 日：列聖請願総代理からのお知らせ**、総長評議員会から全マリアニスト修道者に 3 か国語で送付
- **10 月 14 日：「いのちの約束」の道を歩む｜書簡第 5 号**、総長評議員会から全マリアニスト修道者に 3 か国語で送付

総本部の日程

- 11 月 5－7：ローマでマリアニスト家族世界評議会の会合
- 11 月 14 日－12 月 12 日：総長評議員会がインド地区を訪問

メールアドレス変更

新しい全てのメールアドレスは、次の国際名簿 2026-2027(#81)に載せられます